



續

卷

集所名名榛



K294.1
セ56
群馬県立図書館

236397







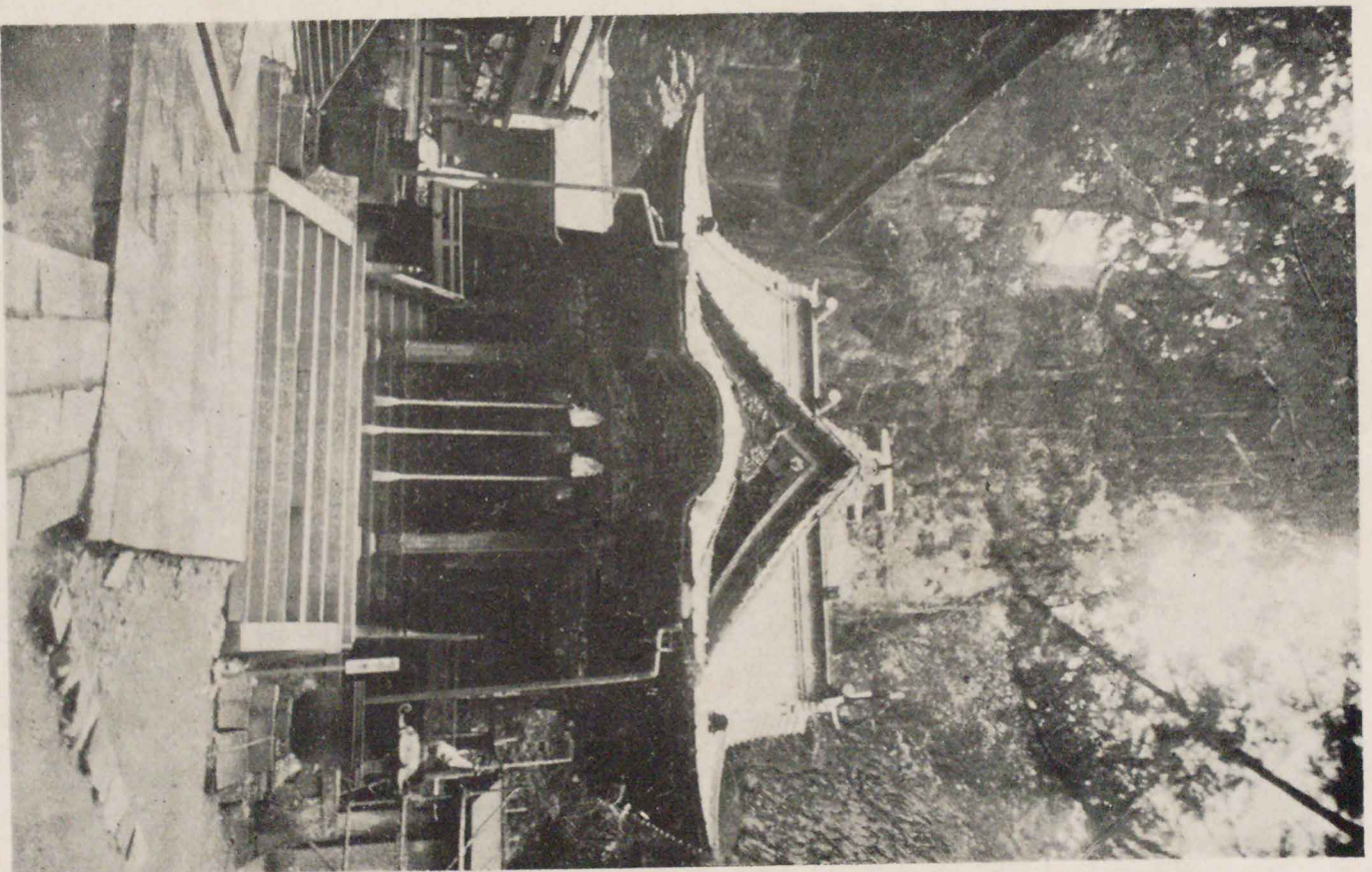
### 榛名山及榛名神社由来

夫れ恭しく舊記を按するに榛名連山は上古は伊香保と呼びて萬葉集を始め諸集の古歌に此山を詠みたるもの最と多く今の榛名湖はいかほの沼にて沼の原は岨の榛原なり平安朝の末期より榛名山とは稱せるなり之れより湖は神湖と稱し權現御手洗と唱へ山中三里四方守護不入の地にて殺生禁斷なりし昔時山上の清苑には雨乞の勅使立たせられし處にて應驗無双の靈場なりしなり今は群馬縣立榛名公園となりて着々諸般の施設經營に其意を濺ぐに至れり。

榛名神社は山中巖山に鎮座ましまし昔は榛名山満行宮大權現と稱し奉りしが明治初年縣社榛名神社と改稱し御祭神は土御祖埴山毘賣神火御祖火産靈神を主神とするか故に専ら國土を鎮護り普く農商工の事を主とり給ふ延喜式に載する所の榛名神社にて上野國神名帳に正一位榛名大明神とある即ち之なり御寶物等夥多ある中に建久元年の古文書武門武將の制札類其他武器器具を始め上代の遺物等頗る多く御神領の如きは古より山中一帶御皇族の御料にて中世藤原道長の後胤代々世襲の莊園なりしが南北朝の分立より續いて元龜天正の武家の割據に任せたりしが慶長十九年徳川家康黒印の法度を下してより代々御朱印の書替へ及御社殿御造營の舉ありてより以來神徳益々全國に赫き靈應特に八州に著しかりき。

畏こけれども明治二十二年には昌子内親王常宮殿下には親しく御参拜あらせられ有栖川宮、小松宮、北白川宮、閑院宮、伏見宮、其他各宮殿下御皇族の御方々を始め華族貴紳内外諸人の参詣年々盛なり。





本 社 及 拜 殿

雲猶もし窟洞は費を雲を  
かばる奇陣内御式川徳は殿拜  
古杉老に即は殿を陣内御式川徳は殿拜  
檜の姿御ち即は殿を陣内御式川徳は殿拜  
交を枝の檜古杉老に即は殿を陣内御式川徳は殿拜  
葉しは交を枝の檜古杉老に即は殿を陣内御式川徳は殿拜  
岩前らせら代年安慶てに造屋靈御式川徳は殿拜  
に殿警に前らせら代年安慶てに造屋靈御式川徳は殿拜  
深に殿警に前らせら代年安慶てに造屋靈御式川徳は殿拜  
たね深に殿警に前らせら代年安慶てに造屋靈御式川徳は殿拜  
中るたね深に殿警に前らせら代年安慶てに造屋靈御式川徳は殿拜  
よ斗さ深に殿警に前らせら代年安慶てに造屋靈御式川徳は殿拜  
知り斗さ深に殿警に前らせら代年安慶てに造屋靈御式川徳は殿拜  
るかへる知り斗さ深に殿警に前らせら代年安慶てに造屋靈御式川徳は殿拜  
天と然幸りよ中るたね重を葉しは交を枝の檜古杉老に即は殿を陣内御式川徳は殿拜

を天と然幸りよ中るたね重を葉しは交を枝の檜古杉老に即は殿を陣内御式川徳は殿拜  
るざらかへる知り斗さ深に殿警に前らせら代年安慶てに造屋靈御式川徳は殿拜  
りな社本御れ之りあり殿警に前らせら代年安慶てに造屋靈御式川徳は殿拜  
歳の年餘百に賞管經辛苦の保に築改の貫目拜向りせ棟上く漸年三永寛しや費を雲  
風翻後。技精妙影は驚の雄雌の貫目拜向りせ棟上く漸年三永寛しや費を雲  
てひ嘘を氣かてつあ時はさ如の龍二梁紅右すとしんら沖に天てつ躍し起を雲  
の等鳥花及龍飛るけ於に井天格其りな筆親御の南常本根師其と關梅井省は盡密  
ふ云とり



玉笛瑤簫森作峰  
行吟小杜好詩句

松杉夾路翠排空  
盤  
古木回巖樓閣風

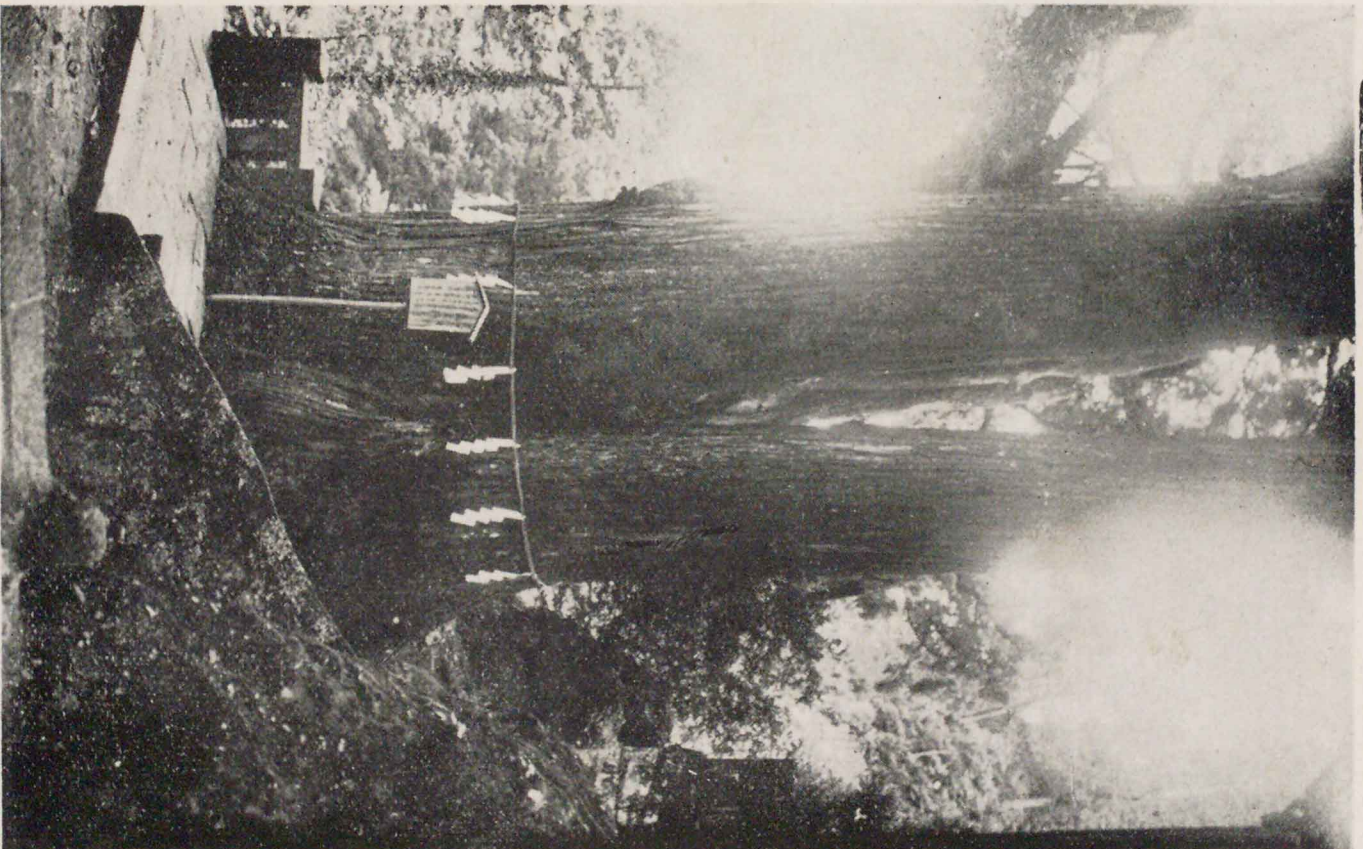


雙龍門さ鈴ヶ嶽

雙龍門又は門龍丸の  
門唐御又は門龍丸の  
岩鋒るた然蒼ふ云と門唐御又は門龍丸の  
松英の姿空青は空青は姿英の岩鋒るた然蒼ふ云と門唐御又は門龍丸の  
實史物人の中史國三面八裏表杖四壁板唐及龍丸の  
巧彫り來し把把を實史物人の中史國三面八裏表杖四壁板唐及龍丸の  
雄雌昇龍雲井天其る見を妙の刀運て却も雖としな美の彩傳粉施すに撞を  
に所ふ賜の公昭齊言納中龍戸水は墨用がれ之り成に筆の芳群島矢は龍二の  
ふ云とりな盤唐るあ緒由て



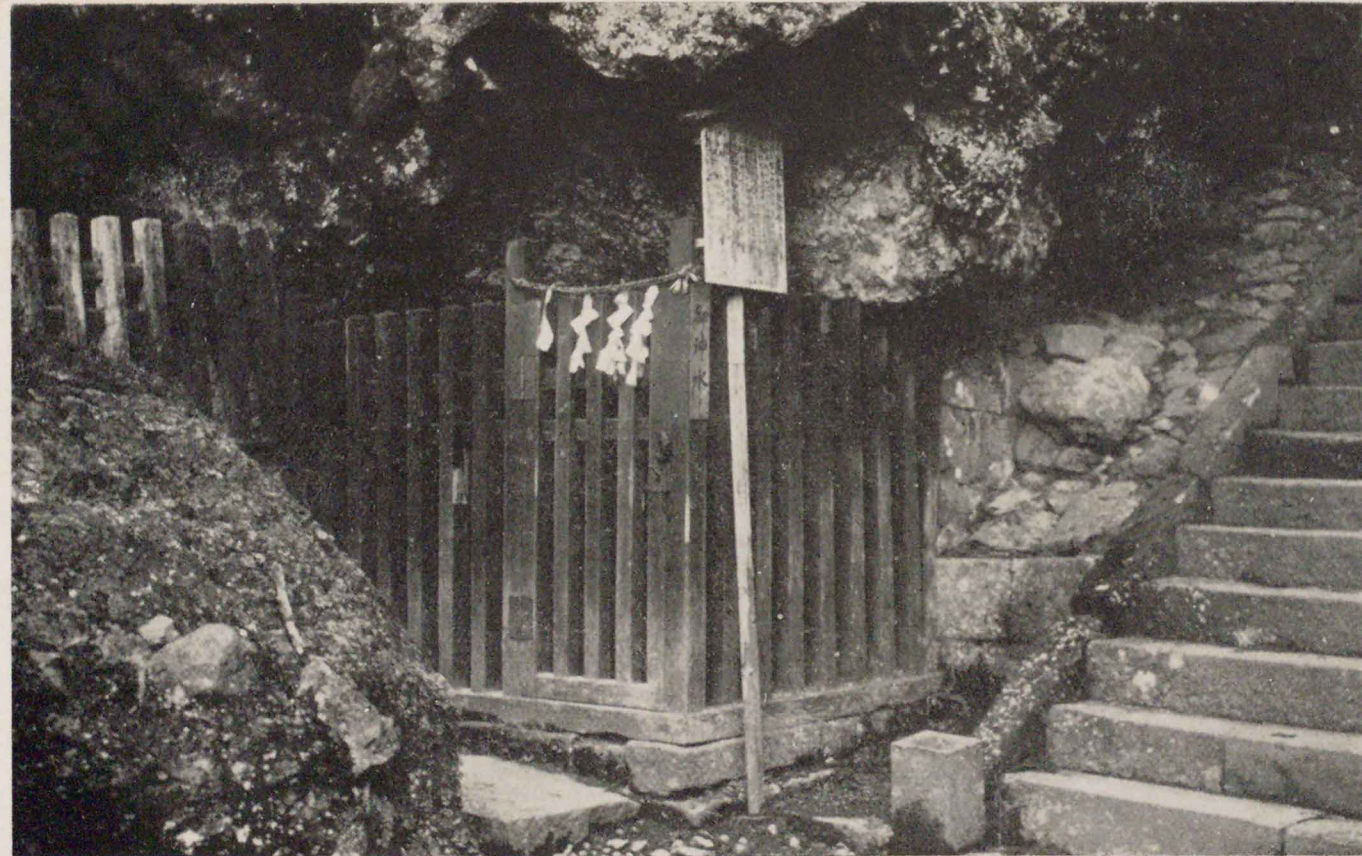
子規  
 中に社のへたてつゝなくや榛名の山ほとぎす  
 高札名山  
 當軍勢甲乙人等於當山濫妨狼籍堅停止訖  
 若此旨有違背之族者可處嚴科者也仍如件  
 九月十日



杉立矢

此で諸に現權際の視巡州上西後城落輪箕年六録永ふいと杉立矢の玄信田武  
 ふ言とりたし果を誓前てし納奉を等宗正料指ら自め駐を士兵及器武に處





四 崑  
 時 下  
 無 在  
 瀬 仁  
 つ 渴  
 き ぬ 井  
 泉 號 不  
 や 云 知  
 苔 萬 其  
 の 年 深  
 花 泉 淺  
 菅 湖  
 山

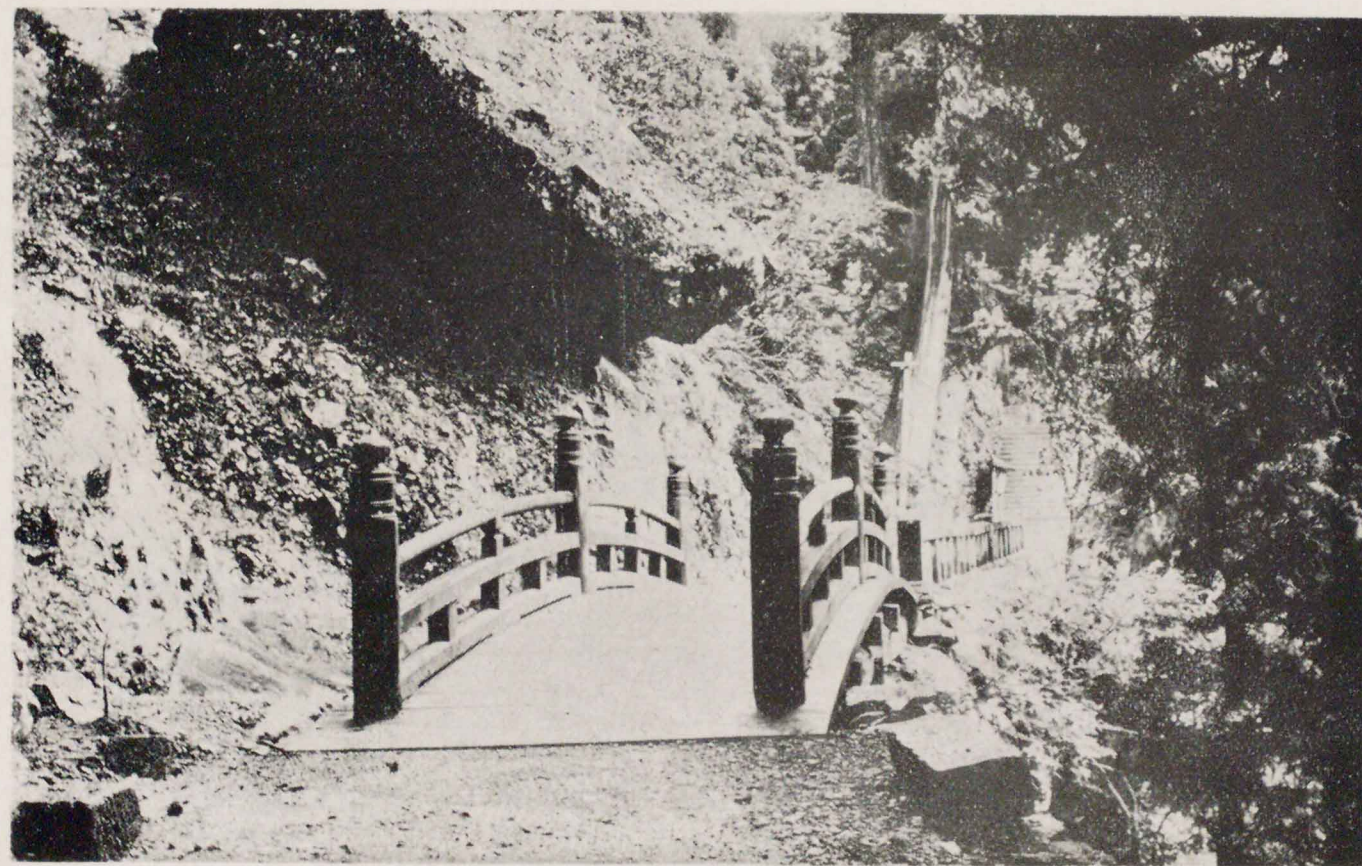
萬 年 泉

し願祈め納み汲に筒の竹青を水此際の請祈乞雨てに書の舒君平の崎長謨君崔の宗年四文元  
 てり來に遙方地きな少量雨島半浦三及總房に今ふ云とりあ驗應す必ばれす献に祠の中里て  
 し多者るむ求を水め籠を願祈







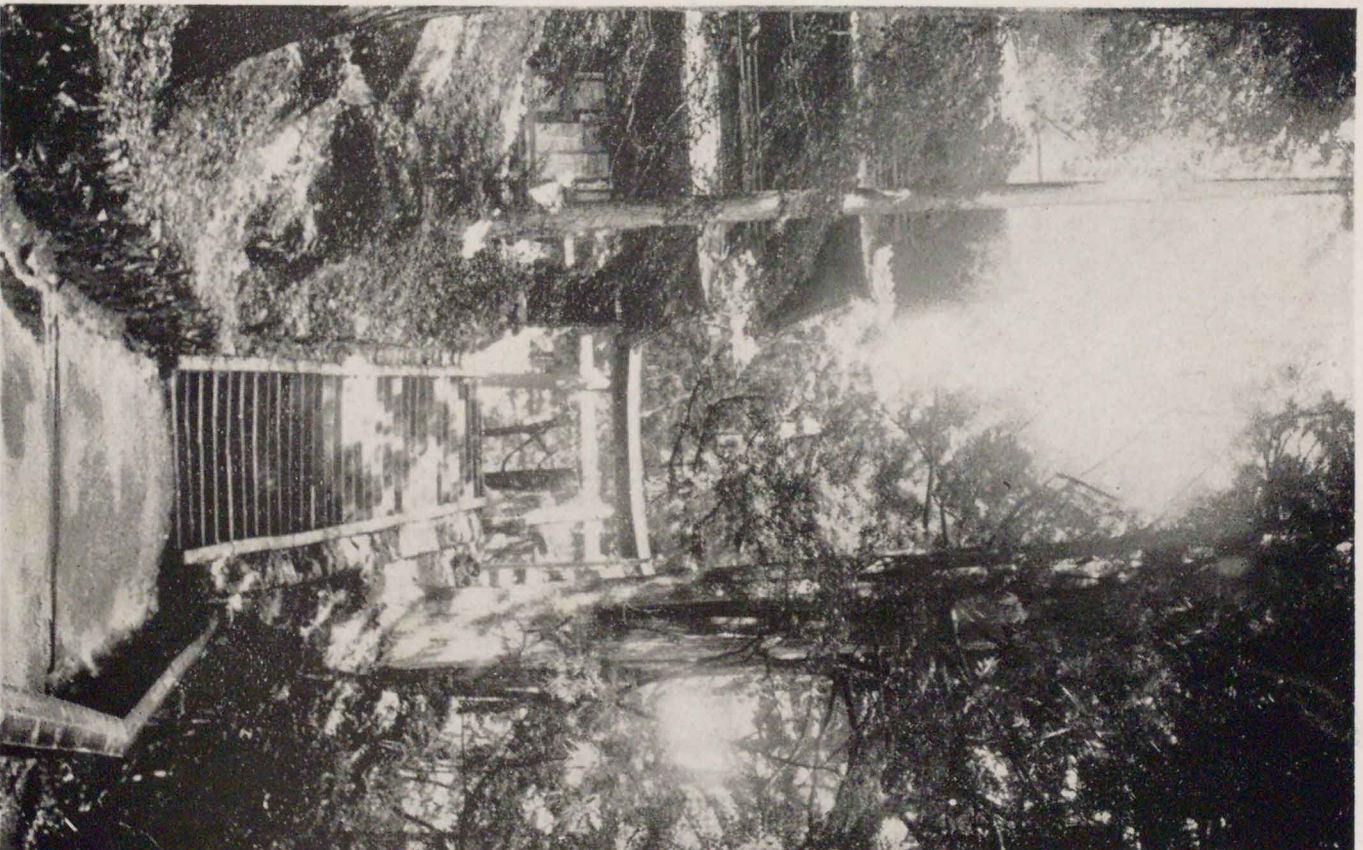


橋 神

限てい衝を空く高峰峻り架に處の腹半嶂青の溪者行間の角巒蹊峽へ稱と橋摩懺ともは橋神  
 古の殿幸御ばせ渡見りよ上橋ふ云とす行修角小役に奥此す成を霧雲てえ消に下瀑吐くなり  
 に中書ど殆く良ら自致配の物景てめつあに目一潔鋭の嶽カ鋒崖高の岩子屏枝靈の櫛序歴雅  
 洩を整め罩を嶺さ抱を石り繞を樹てしと々再雲凍の空満き春に既日澹れ夫し若し如がるあ  
 所名州餘十六本日りな宜すらあに所す盡の舌筆く能景絶は時のすば飛を花六てしと々霏し  
 りあ雪暮の橋神山名榛野上筆重廣に繪圖



敬 神 園 基 禪  
 君も臣も心の塵を淨めつゝ神を仰がぬ日はなかりけり  
 御 姿 殿 小 中 村 清 矩  
 うつとも身はおもほへずあふきみる神代からの神のいはくら



塔 重 三

寺王輪野上間年政安をるせ廢頽く漸て經を霜星幾後り保に立創の年五長廢  
 さ吐を日紅に朝齋丹りよれ是りせ功成てめしせ誓を事諸に祀外宮一山當宮  
 し本期るゆ絶にへ長め眺のむ春を月素に夕菴芥





文に曰く  
 榛名御山座跡云本地云旁以鎮護國家修良之靈地也云云  
 且任舊例且任宿願云云 御廳宜明鏡也云云  
 建久元年十二月日 惣 檢 校 石 石 上 上 花 花 押 押  
 散 位 藤 原 花 押  
 目代左衛門尉

御 廳 宣 碑

御鳥羽院天皇の宣院に當てに社に檢非使健兒兩を使停せに當てに社當てに一の寶社に鎌倉の  
 時代上野の國に布宣にせしめられたるものなり後碑に刻し永世に傳ふ





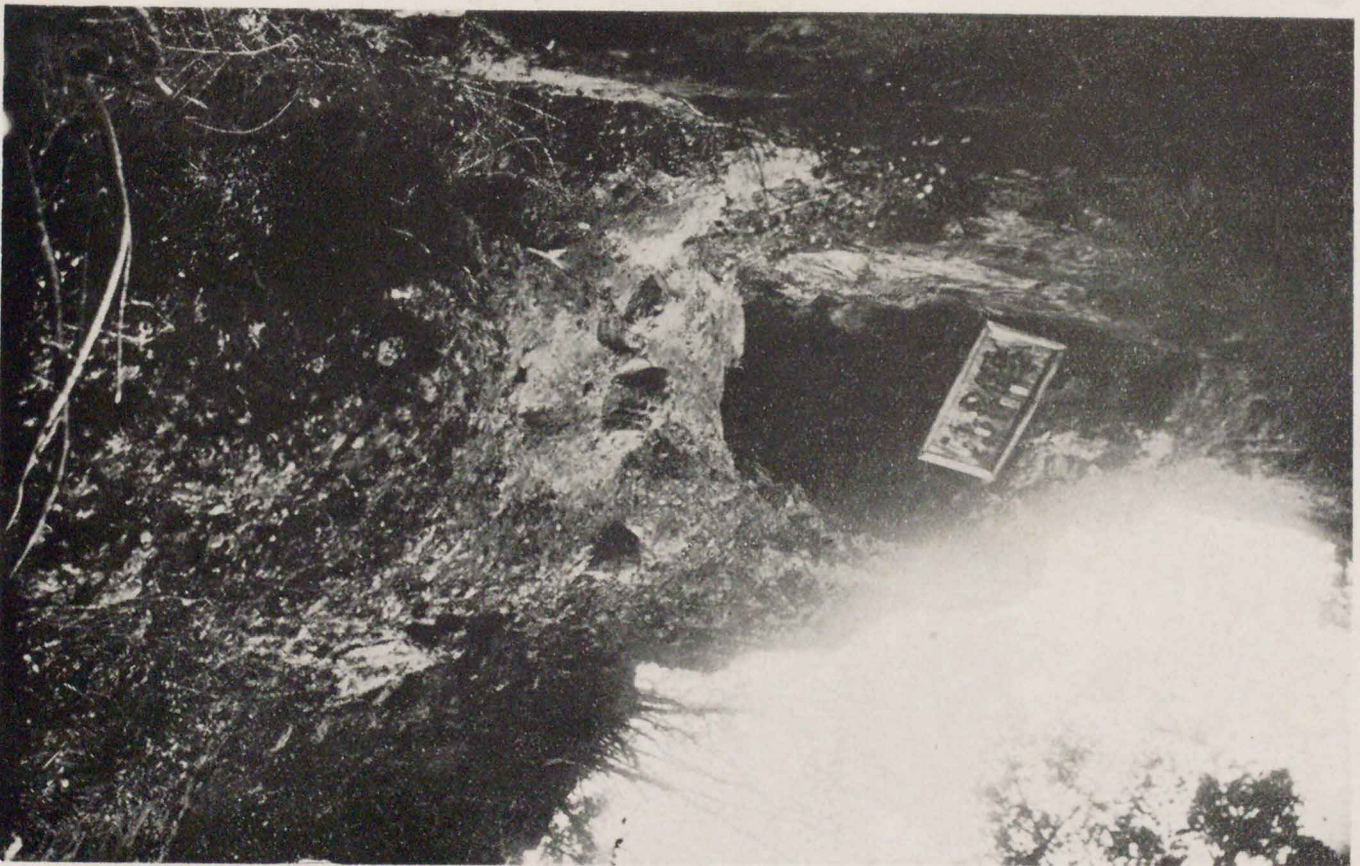
山口 正興  
 榛名川くらかけ岩も秋はなほ錦につむ紅葉のかけ  
 朱欄橋過入仙宮 鞍掛石岩恰如虹  
 百丈跨横馳翠嶺 削成神斧是奇工  
 ちのつからなれるいはほを宮居にて神さひいます神の尊さ

岩 掛 鞍

奉の助太屋原鹽に下りたけつ名に故がるた似に鞍馬りな梁石るあに岨崖の向川道參表内境  
 りあ碑の建再尊動不及燈神



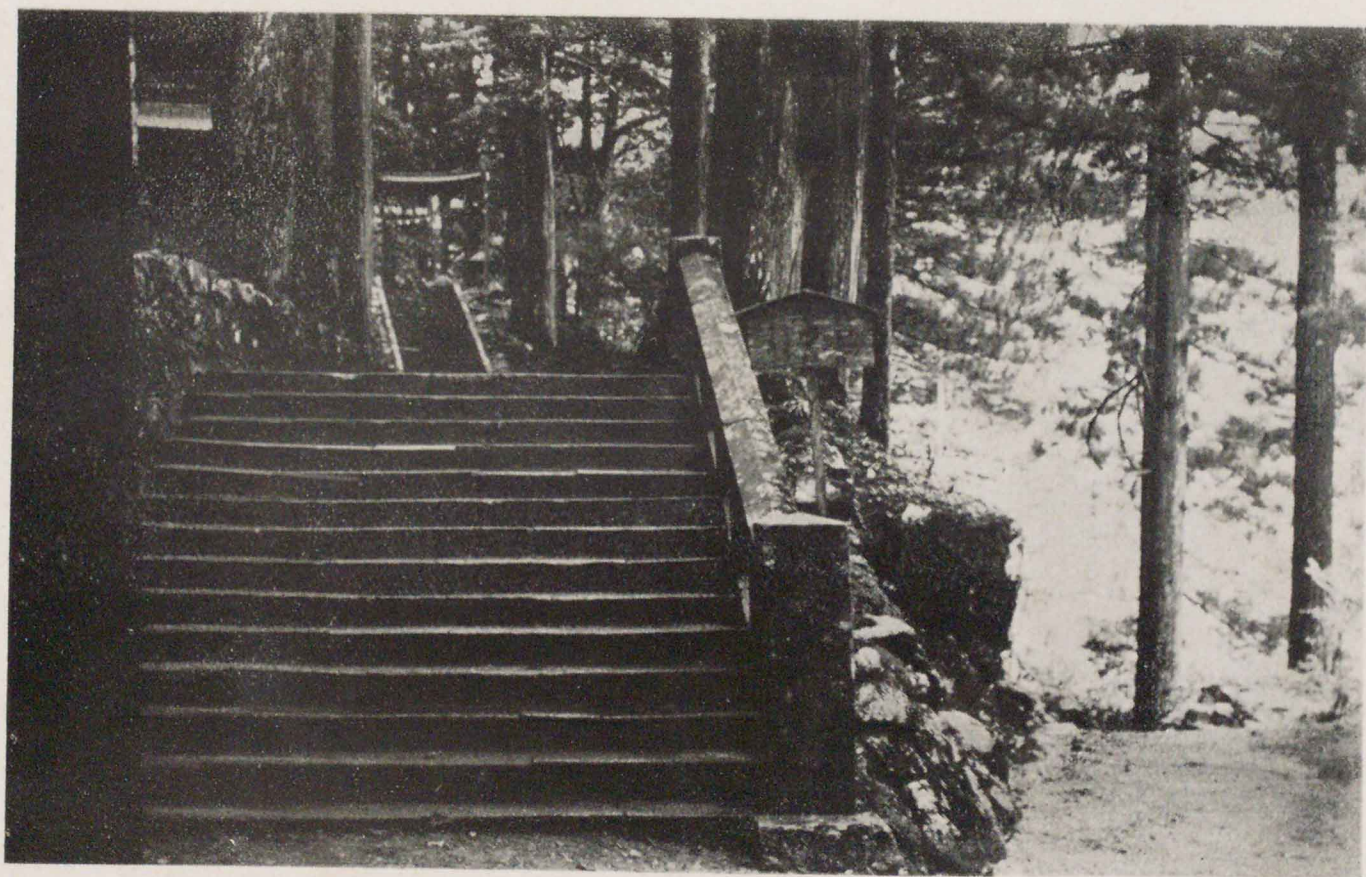
日天月天  
海 上 嵐 平  
朝 霽 に て り か く や き て 日 の み た け 月 の み た け は 聖 も か へ ら ず  
雷 岳  
谷 川 の 音 に き ぼ ひ て 一 む ら の 雨 雲 さ わ ぐ 雷 が た け  
昔 誰 か 植 て 野 中 の か き つ ば た  
萬 葉 の 傳 説 り ぬ か き つ ば た



洞 天 辨

洞此正僧印頼言納中やかし頃の朝北南ふ云と窟珠寶又りおに腹中の岳天月  
せ聽傾てげ捧を珠寶蛇白り依に徳あるせ經讀を供天辨誦修の七三て歟に内  
ぞとくつ名に故云とし



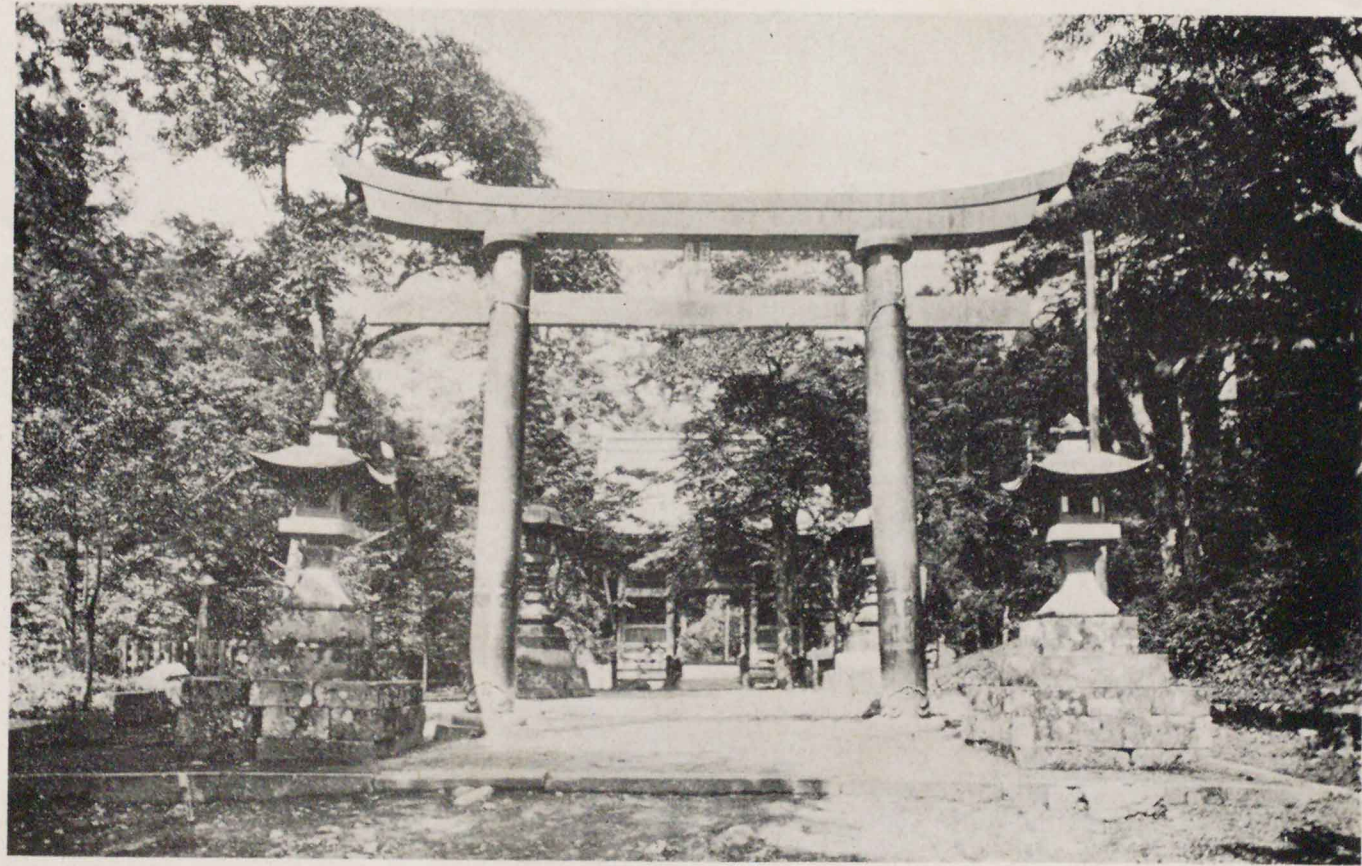


榛名神社  
 百丈奇巖聳碧空 喬形矗々繞祠宮  
 千年靈蹟巖然在 俯瞰流泉紅葉中  
 目の下に秋の空みる湖水哉  
 色かへぬ小松島やいかほ風

鹽原太助奉納玉垣

又し納奉を樂神々太に共と志有信篤戸江際の賽奉就成願大助太原鹽所本戸江夏年三十化文  
 りなのもるたりあ附寄の設建等籠燈及垣玉





五月はかり榛名山に詣て、  
 梓弓春名は花の都にて夏も櫻の盛りなりけり  
 神 祇  
 神代より神のたからをとる弓をまもりとなせる國ぞこの國

門 神 隨

大が雲槐田原は字文大二の龍雲書草の井天りな麗壯る顔刻彫構結てつあで築改の間年保天  
 あと樂神御々太額扁の央中面正てにのるたし毫揮ひ傲に意筆の風道野小額扁の殿龍雲内  
 る成に筆の巖秋原萩はる



廣前の御神樂を見て  
 ふえ竹の世はなれて聞くお神樂はいまも神代の心地こそすれ  
 ○かく山の岩垣しみづ聲なくばこゝろの友となにをきかまし  
 蛙  
 河もまた春をやをしむちりまかふ山吹の瀬に蛙なくなり



魚 留 瀧

内境裏參道柳邊の瀑な撃りなとてしとて底泉を打て岩風屏ら響き風冷を  
 一亦致風し映に川てき咲々黙、吹山、花麻本春晩ゆ覺をさ寒は尙夏てり繞  
 りお値價の段



鬼神千古工  
 累卵石身危  
 九折凌雲立  
 山風吹雨急  
 雨亭

青つらくみたるかたまみ空まで重ねてみづる巖くすし  
 上野やかほのねらのつどら岩いやつら〜に見ては行なむ  
 海上風平



岩 折 九

榛名山中山名未だ未も雖  
 尤の岩奇も奇なるものも  
 世に世てにの實ずか聞  
 らる世稀は形岩奇の折九  
 らる世稀は形岩奇の折九  
 としりあ多夥妖地災天來  
 古し高名に世てにの實  
 ずか聞をるせ異變其だ  
 未も雖





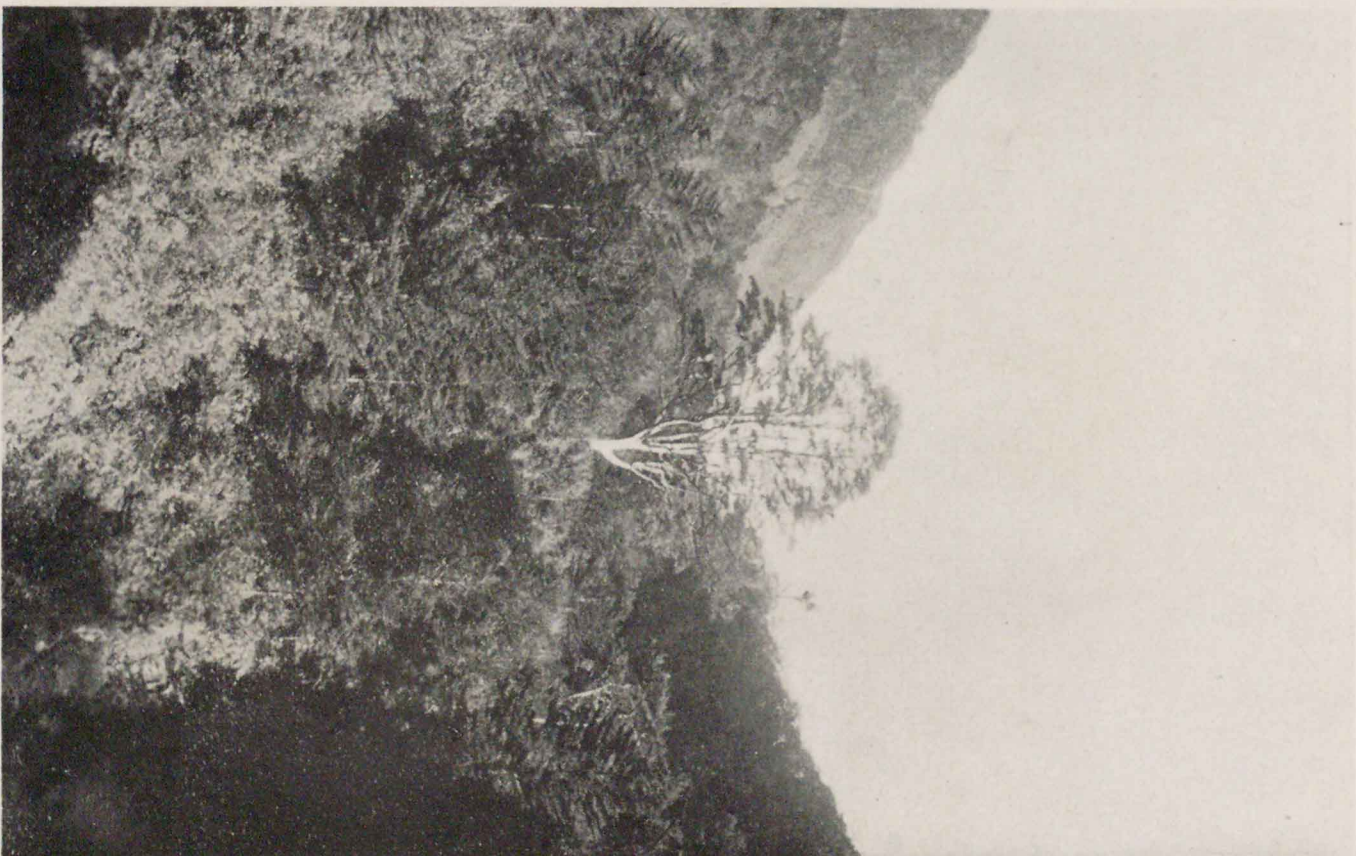
秋葉山  
 榛名川なかるゝ水にかけみえて秋葉の山はもみちそめけり

榛名山町全景

を臺高の山子丸中央の町むしせ泊宿を中社講神敬名榛りあ戸餘十五し瀬に川名榛は町家社  
 む望を峯連の岳ッ八信甲く遠し觀眺を山諸の瀧黒船荒及雲白鷄金洞金山三の儀妙に遙し存  
 學大年近りあ戸餘十舍宿る足にゝる容を上以人百莊靜屋家りせ適に暑避も尤雅閑涼清地土  
 ふ加をさ多々年のもるす滞め爲の學講想練の生



奔流 各 巖 勢 其 壓 嶺 雲 組 似 旆 旗  
 開 說 甲 軍 振 武 地 松 陰 落 日 憶 當 時  
 曆 序 楓 利 雄  
 月次のおほかる年は紅葉の経るにして錦織るらむ



松 本 千

岳々谷嶺に景背りて立に岫山てしと然翁條細枝千ふいもと松のえわぐ  
 さらかへつ捨亦趣景其りある鳴の流清てしと々潺に前





榛嶺畫題  
 山路登物候新  
 白雲埋翠翠增碧  
 御祓川瀬々にながるゝすがの葉のあなすがくし水の白波  
 四屋延陵  
 凄然夾氣似霜辰  
 中在靈泉洗俗塵

橋 ぎ そ み

櫻の春び恩を錦の趾舊傍め眺を景奇の梁石掛鞍に前りな橋欄朱りか架に川洗手御道參内境  
 ひしらあ感の昔今轉趣興もに姿遊の鳥魚葉紅の秋花





秋峯處々錦雲圍  
 一路相逢探勝客  
 天神峠歸路

掬水茶亭咏夕暉  
 籃輿往々挿楓歸

天 神 峠

納奉助太原鹽に傍道てりあ居鳥大くつ名に故がるあ祠神天に上山りたへ唱と坂山御はへ古  
 音鳥ひ洗を渚波漣り渡み澄てしと々漫水湖ばせ下見を前りあ屋茶水に右左りあ籠燈石大の  
 突に前眼岳山の州諸め始を山間淺の州信士富の河駿はに後りせ來往相雲白てしにから清聲  
 しな方んは言光風てし起





榛原 萬葉十四上野歌  
 伊香保呂能蘇比乃波里波良彌毛已呂爾於久乎奈加彌曾麻左可思  
 余加波  
 安蘇山 爲家  
 我戀はあそ山もとの青つゝら夏野を廣み今さかりなり

峠根をせや

の子帽烏士富名榛に右てけ開ち忽界眼ばれず願轉を方四てれ入息一に屋茶水の根尾脊づ先  
 てりあ趣の原高古的陸大くな涯際は野平るた々茫す渡見に前山岩のするす山馬相に左裾山  
 るは疑とかるす揚飛快爽身神





おく山のいわき沼の水こもり戀や渡らんあふよしをなみ  
種しあらばいかほの沼のかさつはたかけし衣のゆかりともなれ

湖名榛と士富名榛

四拔海りへいと岳の沼は昔てつあて山雲の水湖は士富名榛て沼保香伊な名有來古は湖名榛  
とすら知をのもるせ定確の深水てりあ水噴大に々處中藻水の底湖町餘十里一週周は湖尺千  
りあ等碑墓部木。社神龍雷沼御。橋野長。屋士富。亭畔湖所名濱湖ふい



大正十三年九月二十五日印刷  
大正十三年十月一日發行  
大正十四年六月二十五日再版

不	許
複	製

群馬縣群馬郡室田町大字榛名山十二番地  
著作兼  
發行者  
依田省三

東京市芝區愛宕町三丁目五番地  
印刷人  
日新社

群馬縣群馬郡室田町榛名山



販賣人  
小山吉  
門倉永治



群馬県立図書館



0434756-3